

重点事項に関わる本年度努力事項と具体的取り組み（その1）

重点事項：学力の向上による進路保障		主担当	スケジュール	備考「冊子」		
<p>（年度努力事項） 授業力の向上</p>		<p>具体的な取り組み</p>	<p>全員が公開研究授業を行い、批評しあうことで、教科指導力の向上を図るとともに、教科目標を再確認し、教員間で共有することで授業に生かす。</p>	<p>教務</p>	<p>公開研究授業は各教科毎に実施。教科目標確認は8月中に実施し、9月にまとめる。</p>	<p>教員にアンケートを実施。「教科の取り組み」</p>
<p>（目指す姿） 教員が授業改善に積極的に取り組むことによって、生徒の授業理解が進み、学力が向上する。</p>	<p>（現状） 学力向上のために様々な取り組みをしてきたが、根本的な授業改善には手がつけられていない。熱意ある教師が多く、可能性を秘めている。</p>		<p>大学入試問題研究を実施し、授業に反映させる。また、冊子にまとめ生徒に配布する。</p>	<p>進路</p>	<p>8月中に実施 9月にまとめる 10月配布</p>	<p>「東京大学研究」</p>
			<p>生徒による授業評価を実施し、授業の改善を行う。また、分かる授業作りのために、新しい教材研究を行う。</p>	<p>学力向上 学年</p>	<p>9月 3学期に実施</p>	<p>生徒にアンケートを実施</p>
<p>（年度努力事項） すべての生徒の学力の向上</p>		<p>具体的な取り組み</p>	<p>朝の学習や課題提出の徹底により、日々の学習習慣の定着を図る。</p>	<p>学年 教科</p>	<p>毎日実施 週末課題 休業中の課題</p>	<p>教員・生徒にアンケート</p>
<p>（目指す姿） すべての生徒が授業に意欲を持って、積極的に参加し、教師は、個々の生徒の能力を引き出す。</p>	<p>（現状） 入学当初から生徒の学力には大きな差がある。習熟度別授業や毎時間の小テストの実施など各教科において様々な工夫が行なわれている。</p>		<p>個別指導・補習等での学力不振者への指導や、少人数授業・ノート添削等、個々の学力・進路に応じた指導を行う。学習状況記録表を活用する。</p>	<p>学年 教科 進路</p>	<p>放課後・長期休業中</p>	<p>教員・生徒にアンケートを実施</p>
			<p>専門科目の着実な定着を図るために学科や学年に応じた全商主催検定試験1級の取得率の向上に努める</p>	<p>商業 国経</p>	<p>各授業ごと（全体は年度当初に配布）</p>	<p>合格率を昨年度と比較</p>
<p>（年度努力事項） 進路実績の向上</p>		<p>具体的な取り組み</p>	<p>「面談を実施すると共に第1志望を熟考させる。主任面談、担任面談をとおして生徒の進路意識を高める。</p>	<p>学年 進路</p>	<p>2・3年時</p>	<p>教員・生徒にアンケートを実施</p>
<p>（目指す姿） 早い段階から自分の進路を考え、高い目標を設定させる。進学校として進路実績において、地域の信頼を得る。</p>	<p>（現状） 進路実績において、年度により大きな違いがある。地域の信頼を得るだけの成果は現われていない。</p>		<p>学年は成績状況確認会や成績検討会を実施し、面談等で指導に生かす。教科でも研修を行い、具体的な対策をねり教科指導に生かす。</p>	<p>学年 進路 教科</p>	<p>模擬試験毎に結果を分析し、教科指導に生かす。</p>	
			<p>大学合格者数の目標を設定する。 （東大5、京大10、阪大15、神戸20）</p>	<p>進路</p>	<p>4月に目標設定 3月に集計する</p>	

重点事項に関わる本年度努力事項と具体的取り組み（その2）

重点事項：豊かな人間性を持った生徒の育成		主担当	スケジュール	備考「冊子」		
<p>（年度努力事項） 規律ある態度の育成</p>		<p>具体的な取り組み</p>	<p>「生活3原則」の徹底。特に、登校時の遅刻者数を年間0にする。</p>	<p>学年生徒指導</p>	<p>毎日指導</p>	<p>生徒アンケート 学期末毎に集計</p>
<p>（目指す姿） 自由と責任の関係、個人と集団のあり方を考えられる生徒を育てる。地域と学校の間を考えた、行動できる生徒を育成する。</p>	<p>（現状） 「生活3原則」である「挨拶励行・時間厳守・清掃の徹底」を中心に指導している。</p>		<p>部活動の活性化を推進しながらも学習との両立を図る。（文武両道）</p>	<p>生徒指導</p>	<p>4月：入部率 随時指導、戦績の集計と公表</p>	<p>教員・生徒・保護者にアンケート</p>
			<p>マナーアップ運動・全員参加の朝のあいさつ運動を実施する。</p>	<p>生徒指導</p>	<p>学期に1回：マナーアップ運動 毎日：朝のあいさつ運動</p>	<p>教員・生徒にアンケートを実施</p>
<p>（年度努力事項） ボランティア体験の実施</p>		<p>具体的な取り組み</p>	<p>ボランティア等へ参加する。</p>	<p>生徒指導</p>		
<p>（目指す姿） 自ら企画し、社会体験を実行することによって、社会性を高める。また、人のために役立つという体験を通し、自己肯定感を持つ。地域との「絆」をより強くする。</p>	<p>（現状） 素直な生徒たちであるが、自ら進んで何かをやるという体験、自分が必要とされているという体験をさせてやる必要を感じる。</p>		<p>学校周辺の清掃活動を実施する。</p>	<p>生徒指導</p>	<p>5月、11月：クリーンキャンペーン。希望者を募って実施する。</p>	
			<p>地域貢献事業を拡充して実施する。</p>	<p>総務</p>	<p>寺子屋、小野市産業フェスティバルなど</p>	<p>「新聞・報告書」</p>
<p>（年度努力事項） 人権教育の充実</p>		<p>具体的な取り組み</p>	<p>1年次携帯やネット上の人権侵害問題（いじめ等）についての人権HRを実施する。1年当初本校独自・東高人教アンケートを行い、入学までの人権学習の実態を把握する。全校生を対象に人権講演会を実施する。</p>	<p>人権</p>	<p>ネット上のいじめ1年6月、人権アンケート1年</p>	<p>教員・生徒にアンケートを実施</p>
<p>（目指す姿） 人間尊重の心を養い、日常生活において人権を尊ぶ実践的態度を育てる。自らを見つめ、よりよい生き方を追求できる人間を育成する。</p>	<p>（現状）本校ではあまり問題になってはいないが、ネットや携帯メールによるいじめが大きな社会問題となっている。</p>		<p>国際交流を通じ、世界には様々な価値観が存在することを認識させる。</p>	<p>国際理解</p>	<p>7月：タイ王国との国際交流</p>	<p>教員・生徒にアンケートを実施</p>
			<p>教育相談・研修会を実施する。</p>	<p>保健</p>	<p>年間10回：教育相談を実施、7月：研修会</p>	<p>教員にアンケートを実施</p>

重点事項に関わる本年度努力事項と具体的取り組み（その3）

重点事項： 地域に信頼される学校づくり		主担当	スケジュール	備考「冊子」
（年度努力事項） 情報発信の手段と内容の充実		具体的な取り組み	本校を広く外部にもアピールするホームページを作成する。	情報 4月以降随時 保護者にアンケートを実施
（目指す姿）HPに最新の情報が掲載され、HPを見ることによって学校の姿がよく理解できる。新型インフルエンザ等緊急の状況に対応できる体制ができている。	（現状）動画等を取り入れて、本校のすばらしい行事をアピールする。新型インフルエンザ発生時の対応の準備をしておく必要がある。		新型インフルエンザ対策等の緊急時の連絡に、双方向性も考慮した連絡体制を確立する。	総務情報 4月以降随時 保護者にアンケートを実施
			学年通信・保健だより・図書通信などを定期的に発行し、ホームページに掲載する。HPの学年欄の創意工夫をする。	学年保健図書 毎月 「学年通信」「保健だより」「図書だより」
（年度努力事項） 教職員の意識の高揚		具体的な取り組み	生徒事故防止のための危機管理研修会を実施する。	総務保健 7月：実施 教員にアンケートを実施
（目指す姿）学校評価制度を利用して、小野高校のあるべき姿、方向性を教職員が自覚し、日々の教育に取り組む。	（現状）学校評価制度そのものがよく理解できていない。互いに学校をよくするために議論することが必要である。		中間評価の充実を図り、2学期以降の教育活動の活性化を図る。	学校評価 7月：中間評価アンケート 教員にアンケートを実施
			人権教育職員研修会を実施し、人権意識の向上を図る。	人権 年度末 教員にアンケートを実施
（年度努力事項） 地域との連携		具体的な取り組み	全校的取り組みとして、キャリア教育を推進するため地域の教育力を活用したインターンシップを実施する。	インターンシップ委員会 8月中に実習 学校全体の参加状況を割合で算出「冊子」
（目指す姿）学校・家庭・地域社会が、それぞれの教育力を生かしながら連携し、生徒を育成する。地域に開かれ、地域に信頼される学校をつくる。	（現状）高大連携では生徒が講義を受けることが多い。小中連携では生徒が授業をすることで生徒を大きく成長させることができる。		国際経済科3年生が市内の小中学校へ訪問し専門の魅力を取り入れた模擬授業を実施する。サイエンス・パートナー・シップ事業で兵庫教育大学と高大連携を行う。	コース・商国 7月：国際経済 7月：科学総合コース（SPP） 教員・生徒にアンケートを実施「感想文」
			地元企業と連携した販売実習や、専門の授業を利用した商品開発・地域の課題の調査研究活動を実施する。	総務商国 4月：蜻蛉祭販売実習 12月：課題研究発表会 教員・生徒にアンケートを実施「新聞」